

96**ktunes**
RACING

🇯🇵 M.NITTA 🇯🇵 Y.NAKAYAMA

Super GT 2018 Rd,3 Suzuka GT Report

2018/5/20

Final Day Summary

ポールポジションスタートのK-tunes Racing LM corsaはチーム、ドライバーともに完璧なレースを行ない参戦3戦目にしてポールトゥウィンで初優勝を飾る!!

Final Day

開催時期が8月から5月に変更されるとともにレース距離が短縮された2018 AUTOBACS SUPER GT 第3戦「SUZUKA GT 300km Fan Festival」の決勝レースが5月20日（日）に開催された。

19日に行なわれた予選では、K-tunes RC F GT3を駆る中山雄一選手が従来の記録タイムを約2秒更新するスーパーラップによってポールポジションを獲得。K-tunes Racing LM corsaは今シーズンよりエントリーを開始したため、3戦目で早くもグリッドの最上位を獲得する目覚ましい活躍をみせ、RC F GT3にとっても初のポールポジションをもたらす、記録づくめの予選となった。

予選日から一夜明けて、20日は早朝から晴れ渡るとともに前日の強風も収まり、絶好のレース観戦日となる。午前中にはピットウォークと実施され、13時5分から予定されていたウォームアップ走行を待った。しかし、鈴鹿サーキットのシステム故障が発生したためウォームアップ走行が40分の遅れで進行し、13時45分から20分間に掛けて実行された。

K-tunes RC F GT3にはスタートドライバーを務める新田守男選手が乗り込み6周を走行し、マシンとコースコンディションを確認。中山選手も2周を周回して、ウォームアップ走行は終了した。



Final Day

決勝のスタート時間もウォームアップ走行の遅れによって40分のディレイとなり、15時20分にパレードラップがスタートした。新田選手がスタートドライバーとなったK-tunes RC F GT3は、冷静な走り出しで1周目から後続を引き離しにかかる。2周目にはファステストラップも記録し、周回ごとにギャップを築き、5周目には2番手に3秒以上の差を付けることに成功。10周目にはその差を6秒に拡大したが、12周目にGT500マシンがクラッシュしたことによりセーフティカーが導入されて、築いてきたリードが帳消しとなってしまふ。レースは18周目にリスタートし、再び緊迫した状況が始まった。リスタート後こそ0号車のAMG GT3に迫られるが新田選手もプッシュを続け、2秒程度のリードを保ったまま24周目にピットイン。メカニックは冷静に4本のタイヤ交換と給油を行ない、中山選手が乗り込んだK-tunes RC F GT3をコースに送り出す。

しかし、コースに復帰するとすでにタイヤ無交換でピットストップを終えていた18号車の86MCに先行を許していた。そして序盤から2番手を走行していた0号車のAMG GT3が31周目にピットインを実施してコースに復帰すると18号車の前に出てトップを走行。33周目に全車が1回目のピットインを終えると、K-tunes RC F GT3は3番手で0号車と18号車を追うことになった。高速コーナーが得意なK-tunes RC F GT3は、バックストレートから130Rがライバル勢より優れていたため、中山選手は35周目の130Rを過ぎたシケインで18号車にアウト側からパッシングを仕掛ける。ハードブレーキングになったが、中山選手はマシンを上手くコントロールして見事に2番手に浮上する。レースのハイライトとなったのは37周目で、トップを走る0号車を2周前の再現かのようにシケインでパスストップを奪取。トップに立った中山選手は、本来のペースで周回を重ねることが可能となり、5周で12秒の差を作った。終盤は独走態勢に入り、後続とのリードを保ったまま49周目に見事にトップチェッカーを受けて、ポールトゥウィンを達成。

今シーズンから参戦することとなったK-tunes Racing LM corsaは、3戦目で早くも優勝を飾ることとなり、しかもレコードタイムを樹立するポールポジション、ファステストラップ、優勝と完璧な週末となった。

次戦のタイラウンドもRC F GT3にとっては得意なレイアウトとなるので、今戦と同様の活躍が期待される。



Team Comment



Director : 影山 正彦

開幕戦と第2戦は本来のパフォーマンスが見せられずポイントを獲得できていなかったのが、優勝という最高の結果が出せてホッとしています。2戦連続でポイントを獲得できませんでしたが、チームの雰囲気は良く常に全力で挑んでいるので、いずれ結果は付いてくると思っていましたが、3戦目で優勝というのは嬉しい誤算ですね。レースは、新田選手が全ラップでプッシュしてくれて、タイヤのマネージメントも完璧でした。ピットストップを終えて3番手となったときには、このままの順位で終わるのかとも思いましたが、中山選手が素晴らしい仕事をしてくれました。今シーズンから参戦したチームですが、実力も付いてきているので、今後のレースも上位争いをしていきたいです。



Driver : 新田 守男

K-tunes RC F GT3でトップ争いをするライバル勢と走ることがなかったので、スタート後は慎重になりました。ただ、周回ごとにマージンが築けたので好感触を得ていました。しかし、セーフティカーが入ってリードがなくなったときには、がっかりしましたね。それでも気持ちを切り替えて再開後にはプッシュして、中山選手にバトンを繋ぎました。勝てる展開だと思っていたので、自分の役割をしっかりと果たせて良かったです。今回の鈴鹿サーキットラウンドでは、チームが作ってきたマシンも完璧でしたし、ブリヂストンタイヤも状況に合っていました。優勝は、関係者のみんなが努力した結果なので、とても嬉しく想っています。



Driver : 中山 雄一

新田選手がスタートを務めて後半のスティントで乗ったのですが、ピットアウトしたときに18号車との差が想像以上に開いていたので後半勝負になると思っていました。しかし、0号車が押さえてくれたことで、2台をすぐにキャッチアップできたのが良かったです。K-tunes RC F GT3は、高速コーナーが速かったので、130Rからシケインが勝負どころだと思っていました。パッシングポイントの少ない鈴鹿サーキットで、2台を同じ所でパスできたのは、その優位性のお陰です。チームは、参戦からまだ3戦目ですが、着実にレベルアップしていることを感じています。このチームならばシリーズ中盤戦以降も楽しみです。

2018年スーパーGT レーススケジュール

▶ 6.30-7.1 Round.4 THAILAND